



from Paris

## フランス語への「誇り」

このページを開いたとき、フランス人にはどうしても気になる箇所がひとつあるようです。左上のマークの「AIR MAIL」という表記です。なぜなら、1874年に設立され、世界最古の国際機関の一つである万国郵便連合（UPU）により郵便局の国際公用語がフランス語と定められているからです。このため、世界中どこでも、航空便には「PAR AVION」と書き、宛先の国名もフランス語で表記できます。英語が作業言語として追加されたのは1994年になってからです。

また、2020年に東京でも開催されるオリンピック大会では、冒頭アナウンスは、「Mesdames et Messieurs...（紳士淑女の皆さま）」とまずフランス語が会場に響き渡り、その後英語が続くことになっています。これはスポーツを通して国際交流を深めようと、近代オリンピックの開催を提唱したフランス人 Pierre de Coubertin 氏へのオマージュ（敬意）としてフランス語が第一公用語として定められているからです。

これらの事例からはフランス人のフランス語に対



国際郵便の封筒の配色は一説によると、フランスのトリコロール国旗に由来しているそうです。  
(Claude Durrens 作、1969年 ©coll. Musée de La Poste/La Poste)

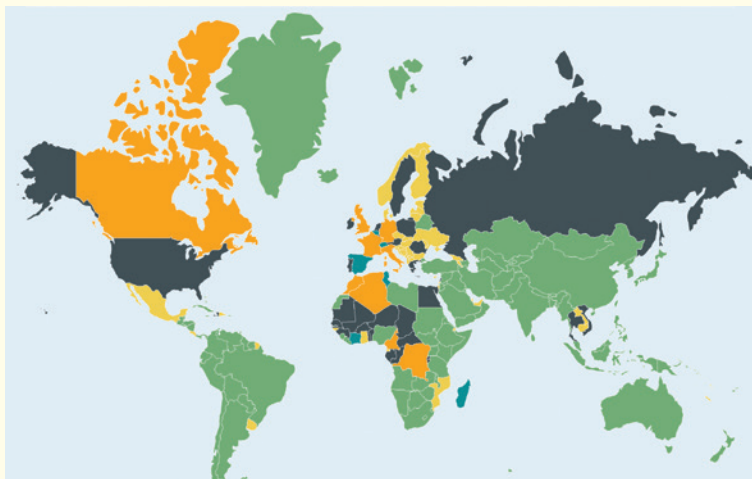
する並々ならぬ誇りがうかがえますが、極めつきは何と言っても1994年に制定されたフランス語の使用に関する通称トゥーボン法でしょう。これにより、フランス国内ではテレビ・ラジオ放送からレストランのメニューに至るまで、商業行為には原則的にフランス語の使用が義務付けられています。

ここまで言語に対して誇りがあるのは、欧州ではフランス語が古くから外交言語として使われ、フランス革命以降、基本的人権等の近現代社会の核となるコンセプトを国際的に発信する言語として認識されてきたことに関係がありそうです。すなわち、フランス語は、民主主義や寛容さといった普遍的価値観をも体現する象徴としてフランス人に大切にされてきたようです。

フランスでは今日でもなお英語で道を尋ねるとげんな顔をされることもあります。こうした価値観への「誇り」が背景にあると理解すれば納得ですね。

(日本銀行パリ事務所)

\*本コーナーは海外で働く日本銀行職員または日本銀行からの出向者が執筆しています。



国別フランス語話者数マップ

- 1,000 万人以上
- 500 万～1,000 万人未満
- 50 万～500 万人未満
- 50 万人未満
- 推計なし

(www.francophonie.org © OIF)

フランス語の話者数は世界第5位  
(フランコフォニー国際機関調べ)。